

旧第2通学区の高校の学びのあり方について 意見・提案（案）
に対するパブリックコメント結果

旧第2通学区の高校の学びのあり方について 意見・提案（案）にかかるパブリックコメント手続きの結果、寄せられたご意見とそれに対する協議会の考え方をお知らせします。

意見募集期間

令和2年（2020年）3月23日（月）から令和2年（2020年）4月20日（月）まで

提出された意見数

19件（9名）

旧第2通学区の高校の学びのあり方について 意見・提案（案）への
提出意見に対する協議会の考え方

No.	提出意見	協議会の考え方（案）
1	<p>第2通学区における少子化の現状や将来予測など、すべて40人学級を前提として計算をしていますが、少子化がすすむ中、欧米諸国では当たり前になっている少人数学級編成を導入すべきです。</p> <p>県は少人数「授業」を行っているとしていますが、選択授業や一部の教科など非常に限定的です。クラス単位での行動が多い日本では、現在の新型コロナウイルスへの対応を考えても、クラス編成の点での少人数をめざすべきです。</p> <p>県教委は「法律において40人と規定されている」（第1回議事録）と説明しましたが、あくまで「標準法」であるため県の裁量の余地があります。実際、義務教育について長野県では県単独の予算を措置し35人学級を実施しています。今年から始まった「未来の学校構築事業」での少人数編成の研究（坂城高校）は5年後に結果が出されるもので、再編議論には活かすことが出来ません。上伊那の協議会からも「少人数学級編成についてモデル校に限定せずに研究すべき」との意見が県に提出されています。将来的な学校と学びのあり方と関連して、旧2通でも少人数学級編成の推進について意見書に盛り込むことを要望します。</p>	<p>県教育委員会が策定した「高校改革～夢に挑戦する学び～実施方針」（以下「実施方針」と言う。）では、「高校教育の質的向上、教育課題の解決及び多様な学びの場の創造を目的として、モデル校（「未来の学校」研究校）を指定し、成果を広く県下の高校へ普及させる。」とし、「少人数学級を研究する高校」で「教育効果を検証する」としています。</p> <p>「旧第2通学区の高校の学びのあり方について 意見・提案（案）」（以下「意見・提案」と言う。）は、実施方針を議論の前提としています。</p> <p>「標準法」による教員配置は、「高校改革」を進める上での前提であり、国で定めた基準の中で、限られた人的資源を最大限有効に活用する視点で考える必要がありますが、「未来の学校」研究校における研究開発において、その有効性について検証・評価が進められ、慎重に検討がなされていくものと考えます。</p>

No.	提出意見	協議会の考え方（案）
2	<p>協議会では、総合学科高校と総合技術高校の見学を行い、その利点について高く評価していますが、普通高校については見学が行われず、掘り下げが不十分と感じられます。中学生の普通高校への希望が多い状況も踏まえ、普通教育を担う普通高校の意義についてさらに言及されることを要望します。</p>	<p>比較的新しい形態の高校である総合学科高校と総合技術高校については、協議会委員の認識が薄いことから授業を見学させていただきました。</p> <p>普通高校についても特色ある教育が求められており「社会の変化に柔軟に対応する力を育てる普通高校」として要望します。</p>
3	<p>第3回協議会のまとめで三木市長が触れられたように、日本はOECD諸国に比べてGNPに対して教育予算が占める割合が加盟国中最低という状態です。意見書案では「海外留学制度」や「専門高校の最新設備」を例に挙げて「教育予算の増額」を求めています。トイレの改修など生徒の生活環境や、学校の需用費・図書費、教職員の配置などを含めた大幅な「教育費の増額」を提言してください。</p>	<p>意見・提案の「5、⑦教育予算の充実」で要望します。</p>
4	<p>「子どもたちの夢をかなえる学び」というキーワードがあります。いい言葉です。ただ「子どもたちの夢」とは何でしょうか。高校教諭として勤務していた経験からは、高校生までに将来の職業等について具体的な夢を持っている人はごくわずかでした。ましてや高校進学を考える時点（中学生）では夢といっても漠としたものでしょう。そもそも、夢や目標は、一人ひとりが違う時に、それぞれの経験などをきっかけに我がものにしていくのではないのでしょうか。そこで、その夢や目標を現実的なものにするために必要なのは何かと考えた時、私は、自分で考え、自分で学んでいくための基本的な力だと思います。基本的な力がどれほどかで、見ることができる夢も、持てる目標も広くなったり、狭くなってしまったりします。今回の提案では、普通科、総合学科、総合技術高校、定時制高校といった区分けの中で意見が述べられていますが、そのどこでも身に着けてほしいのが基本的な力です。</p> <p>社会の変化に対応できるようにするための具体的スキルを学ぶことも、実学スキルを身に着けることも否定するものではありません。しかし高校</p>	<p>県教育委員会が策定した実施方針では、「高校教育の質的向上、教育課題の解決及び多様な学びの場の創造を目的として、モデル校を指定し、成果を広く県下の高校へ普及させる。」とし、「少人数学級を研究する高校」で「教育効果を検証する」としています。</p> <p>意見・提案は、実施方針を議論の前提としています。</p> <p>「未来の学校」研究校における研究開発において、その有効性について検証・評価が進められ、慎重に検討がなされていくものと考えます。</p>

No.	提出意見	協議会の考え方（案）
	<p>教育では、まずは、あるいはそれと並行して、基本的な力をつけられるようにすることが必要と考えます。</p> <p>基本的な力とは、いわゆる基礎学力、つまりペーパーテストで計ることができるような基礎的な知識だけでなく、想像力、探求心、探究心、コミュニケーション力や自律心、他者を尊重する力、表現力・・・などなど、それぞれ重なり合う部分がありますが、さまざまな生きる力のことです。社会へ出た時に、困難があっても乗り越えて、自分の足で歩いて行くための力です。学校生活の中でその力を育む必要があると思います。それには、教師が一人ひとりの生徒をよく理解して、そこに寄り添いながら（教師によってさまざまなスタイルはありますが）育てるのでなければなりません。生徒にはそれぞれ強みも弱いところもあります。何をどう伸ばし、支援して総合力を高めるかが教育に問われていると思います。</p> <p>探究的な学びとしてのアクティブラーニングは、優れた学習方法だと思います。そこで大きな基本的な力をつけることのできる可能性があります。しかし、生徒が課題に向かい合って、どう展開し、学びを深めていくかは、現段階では指導があつてこそだと思います。まさにきめ細やかな指導が求められます。</p> <p>そう考えると、少子化が進行する今こそ、教師のきめ細やかな指導が行き届きやすい学習環境を作ることができるチャンスなのではないでしょうか。ですから「少人数学級の実現」を、提案の中に是非入れてください。よろしくお願いします。</p> <p>4月18日（土）付信濃毎日新聞26面に、「学年規模維持に統廃合必要」との見出しで旧第2通学区の高校の将来像を考える協議会が素案をまとめた旨報道されました。この素案は3月16日（月）に須坂市公民館で行われた第4回協議会で最終的に検討されたものだろうと思いますが、1ヵ月もの間において「協議会が17日までにまとめた」とする報道には少々違和感を持ちました。また、「統廃合必要」との見出しでしたが、第3回協議会、</p>	

No.	提出意見	協議会の考え方（案）
	<p>第4回協議会を傍聴した私としては、これにも違和感を否めません。協議会では視察された中野立志館高校、須坂創成高校はもとより、それ以外の高校の良さを確認し、これからもその良さを大事にしていくべきとのご意見が出されていましたが、多様な子どもたちへの支援に力を入れるべきという強い意見もあるなど、大変良い議論がされていたと承知しています。一方、統廃合すべきだとの強い意見は出されていなかったと思います。</p> <p>どうしてそのような見出しになったのか、特別な理由はないのでしょうか。報道は世論へ影響が大きいので、気になりましたので書き添えます。</p>	
5	<p>全体的に無難な「あり方」だと感じた。今後50年、世の中の発展が停滞するのであれば、この「あり方」でよいと思う。チャレンジが足りないと思う。今と変わらない未来しか見えない。</p>	<p>これからの社会は、様々な技術が急速に進んだ超スマート社会と言われますが、技術革新のスピードは益々加速しており、全く予測不可能です。</p> <p>そうした中であっては、その時々で、柔軟に学びの形を変えて社会の変化に対応していく場・高校を作る必要があると考えました。自ら自分の進路を切り拓いていく中で新たな世界を拓いていくのは、生徒だけではなく、学校そのものにも必要なことだと考えています。</p>
6	<p>若い労働人口が不足することを踏まえ、働きながら学べる環境を強化する。午前授業・午後就労、終日勤務日など。定時制に拘らず、普通科として実践しても良い。学びながら働くことは、生徒自身が「将来の自分のあり方」を見つめる良い機会だと思う。</p>	<p>ご意見の趣旨は「いつでも学べる柔軟な仕組みを整備し、幅広い学びの場として充実して行く必要があります。」という表現の中に含ませていただきました。</p> <p>また、総合技術高校で取り入れられている実践的な就業体験であるデュアルシステムを、ものづくり産業以外にも拡大・充実する提案としています。</p>
7	<p>就職後も学べる環境を強化する。働きながら学ぶことも、就労者にとって、再度「将来の自分のあり方」を見つめ直す良い機会になると思う。</p>	<p>将来の高校は、現在の大学のように、社会人が学べる場所、一般の人たちの学びの拠り所としての機能を持たせる必要があると考えます。</p> <p>社会が多様化し変容する中、「学び直し」のニーズが大きくなることも考えられ、それに応えられる学校であるとともに、様々な人が互いの知識や情報共有を</p>

No.	提出意見	協議会の考え方（案）
		通じ、相互に高めあう場としての、ラーニング・コミュニティを提案に盛り込んでいます。
8	<p>小中学校に通っている時から、自分はどのような事に向いているか、どのような職業・生き方に興味があるか、将来どのように生活したいのか、そのためにはどうすればよいのか、を真剣に学び・考える機会をもっともっと増やすことが大切だと思う。</p>	協議会でも、義務教育段階で行われているキャリア教育の見直し・充実の議論がありましたが、意見・提案では、高校の学びのあり方に絞って提案します。
9	<p>須坂市内で高校を選択する際に、偏差値の高い学校と偏差値の中間の学校との差があるので、長野市内にある学校の選択肢になってしまいます。親としては、子どもの送迎も考えると近いところが望ましいですが・・・。</p> <p>私立高校は、施設や備品などが新しく、授業も講師などを呼んで楽しいと聞きました。</p> <p>長野市内の高校の偏差値が上がってきているので、そこに入れなかった生徒が、須坂市内の高校に進学すると言った事も聞きます。</p> <p>須坂市の子ども達は、須坂市で育てたいのもありますが、他の地域で勉強させるのも良い経験になるかとも考えます。</p>	須坂市内で高校進学すべてのニーズを満たすことは困難と考えますが、旧第2通学区内には、普通高校、総合学科高校、総合技術高校、定時制高校が揃っていますので、「5 子どもたちの夢をかなえる学びのあり方について」で、この学習環境の維持を要望します。
10	<p>「再編基準」そのものを検証すべきです。</p> <p>「再編基準」は、県内の高校を、「都市部存立普通校」「都市部存立専門校」「中山間地存立校」「中山間地存立特定校」に分けて、それぞれに異なる募集定員を設定して、それを下回ったら、統合や募集停止を迫るという、自動再編基準になっていること、1学級40人定員を前提としていることが問題です。まず、これの検証が必要です。</p>	<p>意見・提案は、実施方針を議論の前提としています。</p> <p>再編基準等は実施方針策定の段階で、パブリックコメント等を経る中で議論が尽くされているものと考えています。</p>
11	<p>須坂・須坂東と中野西・中野立志館をそれぞれ統合です。</p> <p>私個人私立出身ですので県内全域公立を統合した方がよいです。山間部廃止に。思い切った高校再編していただきたいです。</p> <p>私立は真剣味があります。高校は私立の時代です。</p>	<p>意見・提案では、「はじめに」でも記載したとおり、「子どもたちにとって希望の持てる教育環境をどう整えるのか」「地域との強い関わりの中で存在している高校は、地域が戦略的に創って行かなければいけない」という視点でまとめています。</p> <p>具体的な高校の配置については、県立高校の設置者である長野県に委ねたいと思います。</p>

No.	提出意見	協議会の考え方（案）
12	<p>まず基本的な問題として、県教委の提案の根底に安倍政権の特異な政策があるのではないかと感じます。国の教育政策は文科省の手を離れて経産省と官邸の産業政策に位置付けられています。これからの社会は情報化、グローバル化で大きく変わりますが、県教委も、教育を単なる「人づくり」として、有用な労働力育成の場として見ていてのではないかと感じます。国家財政が厳しいから少子化に乗じて 40 人学級を基本として後期中等教育を効率化しようとしているように見えます。これでいいのでしょうか。</p> <p>協議会委員の中に教育を良く知る学識経験者、教育学研究者が見当たりません。戦後教育の成果と課題等について研究された専門家の見識が反映されていない教育政策、教育方針でいいのでしょうか。このような疑問・懸念を持っている県民は決して少なくありません。このような意見を報告書の中に付記してください。</p>	<p>協議会の意見・提案は、教育政策についてするものではなく、ましてや「戦後教育の成果と課題」を検証するものでもありません。</p>
13	<p>教育の目的は、教育基本法第 1 条にあるように「人格の完成」と「平和で民主的な国家及び社会の形成者」の育成です。私は教育を「尊厳ある個人」の育成、「人格の完成」を目指す作用としてとらえていくことが必要だと考えます。「意見・提案」ではこのような視点が反映されていないように思います。「探究的な学び」も教育基本法のこの視点をきちんとしたものでなければいけないと思います。そうでなければ表面的な、実利を狙った教育だけになってしまいます。特に「信州学」がそうです。義務教育で生じた基礎学力の格差を克服して「人格の完成」を目指し、「探究的な学び」に挑戦する後期中等教育の場にしていく。教員数も十分に確保するなど財政面でも条件整備をすべきではないでしょうか。(国の教育予算があまりにも少ないのは OECD の調査から明らかです。)教育は「平和で民主的な国家及び社会」形成への投資です。</p>	<p>教育基本法で定める教育の目的については、当然に高校教育の中でもその達成に向けた取り組みが為されているものと考えます。</p>
14	<p>都市部存立普通校の募集定員を機械的に 6 学級 240 人と規定することに反対です。30 人規模学級こそ目指すところ。学校が地域の資源として成り立ってきた歴史を見れば、財政面や経済効率のみ</p>	<p>都市部存立普通校の募集定員については、協議会の議論の前提である実施方針で示されたものであり、議論が尽くされているものと考えます。</p>

No.	提出意見	協議会の考え方（案）
	<p>（と見える）から存立の是非を判断するのはいかなものか。特色ある普通高校が2校あって切磋琢磨する。可能だと思います。また、子どもたちの成長は集団の人数の多少で決まるものでないことは歴史を見ても現実を見ても明らかです。県内でも全国にも少人数の高校から人材が輩出している例は多々あります。</p>	<p>なお、実施方針では、都市部存立普通校について「募集定員 240 人以上が望ましい」としていることから、意見・提案の「5 子どもたちの夢をかなえる学びのあり方について」中、「募集定員 240 人（6 学級）規模以上の高校」を「募集定員 240 人規模以上の高校」に改めます。</p>
15	<p>教育予算を大幅に増やすことを国・県へ要求すべきです。OECD の調査を見るまでもなく、日本の実情はあまりにもひどい。義務教育化した高校教育も完全無償化し私費負担を無くすとともに、同窓会や地域で支える体制をつくるべきではないでしょうか。</p>	<p>意見・提案の「5、⑦教育予算の充実」で要望します。</p>
16	<p>三木市長のメディアでの発言が「統合ありき」に感じます。これでは何のための協議会なのかわかりません。財政が逼迫した状況にあることは推察できますが、生徒数減少をチャンスととらえ、少人数できめ細かな教育を打ち出し、教師数は最低でも現状を維持し、教師への負担を軽減すべきでしょう。240 人 6 クラスなどという「数」にこだわっていたのでは、きめ細かな教育は望めません。教育への投資は将来のための投資です。「教育に金をかけない国は亡びる」と伊藤忠の元社長もおっしゃっています。教師数を減らすなどという愚策は避けてほしいと思います。</p>	<p>No. 4 でお寄せいただいたコメントにもあるように、意見・提案をまとめる段階（第3回・4回協議会）で「統合ありき」の議論も発言もございませんでした。</p> <p>意見・提案の「5、⑥教員の確保と研修の充実」で、教員の充実・確保を要望します。</p>
17	<p>具体策に関して気になった点は、国際化を視野に入れた特色を打ち出した高校についてです。中野西高校には英語科が設置されていましたが、廃止されています。国際化を視野に入れていたなら、なぜ英語科を廃止したのでしょうか。近年の中野西高校の志望者数の減少は、英語科廃止後に顕著になりました。この点について議論はなされたのでしょうか。また、須坂東高校に関しては、生徒から「動物園状態で授業にならない」授業があるという報告も受けています。このような状態を改善しなければ、統合したところで長野市内の高校に生徒は流れてしまい、区域内はますます空洞化してしまいます。中野西と須坂東に関しては現状の改善に早急に取り組み、須坂高校を中高一貫校化</p>	<p>協議会における協議内容は、現在の各高校の授業状況の改善等を促し、問題提起するものではありません。</p> <p>また、「5 子どもたちの夢をかなえる学びのあり方について」に記したように、ある程度の学校規模が、この地域の子どもたちの成長には必要であると考えます。少子化が進む中であって、「高校数は現状維持をベース」に考えることはできません。</p>

No.	提出意見	協議会の考え方（案）
	<p>するなども検討し、高校数は現状維持をベースに協議を継続すべきことを提案いたします。</p>	
18	<p>生徒や保護者の、通学にかかる経済的・物理的負担を考えると、身近な地域に通学可能な希望する高校があることが望ましいと思います。</p>	<p>「5 子どもたちの夢をかなえる学びのあり方について」で、旧第2通学区の特徴である、普通高校、総合学科高校、総合技術高校、定時制高校が揃った学習環境の維持を要望します。</p>
19	<p>高校を選択する中学生の段階で、自分自身の将来への見通しややりたいことについて明確な考えを持っている生徒は、いないわけではありませんが、必ずしも多いとは言えません。高校での生活や学習を通して、就職、あるいは専門学校等への進学を選択したり、また、大学や短大を卒業しないと取れない資格や免許状を必要とする職業もありますので、こうした職業については、普通科から大学・短大へという選択が一般的ですし、大学で改めて職業選択を考えるということもよくあることです。「意見・提案（案）」の「5 子どもたちの夢をかなえる学びのあり方について」には、「信州グローバルハイスクール」や「国際教育プログラム研究校」など、他地域からもその魅力に惹かれ生徒が集まるような、先進的な教育の場が必要です。」との記述がありますが、これはごく一部のエリートに向けた教育の場であり、こうした場は他地域にすでに用意されており、これからすすむ少子化のもとで旧2通がこうした学校を目指すことは適切なのか、疑問と言わざるを得ません。中学生の段階で、自分自身の将来像が見えないために、普通科を選択するというのは、これまでも見られた一般的な流れです。専門学科を確保したうえで、多くの生徒が希望する普通の「普通科」を残す方向を検討していただきたいと思います。</p>	<p>No.18 でお寄せいただいたコメントにもあるように、身近な旧第2通学区内に、先進的な教育の場も含め、様々な高校があることが望ましいと考えます。</p> <p>また、「自分自身の将来像が見えないために、普通科を選択」し、時間をかけて自らの将来を考える生徒も大勢いるでしょう。</p> <p>生徒の興味・関心や進路希望に応じて、様々な科目の選択が可能な総合学科高校は、まさにそうした学びの場ではありますが、その特色を広く地域に情報発信する必要があります。加えて、普通科を希望する生徒が多いことも踏まえ、専門学科と連携・協働し学科横断的な学びを実践する普通科の特色化・魅力化の方策として、専門高校である「総合技術高校プラス普通科」も提案します。</p>